

News

2026 年 1 月 14 日にオンラインで開催された日本看護系学会協議会（JANA）意見交換会では、各委員会・プロジェクトの進捗共有に加え、将来構想アンケート結果、災害看護の取り組み、Choosing Wisely キャンペーン推進について活発な意見交換が行われました。本速報では、主なポイントをお知らせします。

各委員会・プロジェクトからの主な報告

1. 看護ケアガイドライン普及推進委員会・Choosing Wisely
2026 年度月上旬に、公的研究費拡大推進委員会と合同で調査を実施予定です。
「問い直すべき五つのこと（Five Lists）」の作成指針を JANA として整理し、各学会が取り組みやすい形での推進と、市民向け発信の強化を確認されました。
2. 災害看護連携委員会
社員学会アンケートでは約 4 割が「災害看護推進」に関心を示していました。
小規模学会も含めた情報共有ネットワーク構築、教材の集約・公開、災害時支援のシステム化に向けた検討を進めます。
3. 研究倫理推進委員会
2026 年 2 月 23 日に「論文作成における生成 AI 活用の倫理的ジレンマ」をテーマとしたオンライン講演会を開催予定です。
論文執筆ハンドブック改訂や、個人研究者向け倫理審査情報の整備も進行中です。
4. APN 制度推進委員会
APN 実践モデルの集約と発信、学会間での取り組み共有、市民・社会への分かりやすい周知方法の検討が今後の重点課題として示される。
5. 公的研究費拡大推進委員会
科研費増額の動きを受け、大型研究費獲得支援や若手研究者支援体制の強化を推進します。
6. 広報委員会・総務委員会・将来構想プロジェクト
ウェブサイト改修、ニュースレター・速報発行、資料アーカイブ化など、JANA 活動の「見える化」を一層推進します。
将来構想アンケート結果を踏まえ、学会間連携、政策提言、DX、人材育成などへの期待が共有されました。

7. 将来構想プロジェクト「社員学会アンケート」から見た声

① JANA への期待：社会・市民への看護の成果発信

日本学術会議や他学協会との連携強化

日本学術集会への参画に関する助言

高度実践看護師（APN）制度、研究倫理、研究費支援

② 年会費について：多くの社員学会が現在の額を適切と回答。

一方で、運営上負担感の大きい学会も存在。

値上げには相応の根拠が必要との意見が多数。

非会員数の少ない学会への配慮が必要。

Choosing Wisely 推進に関するディスカッション

Choosing Wisely 推進については活発な議論が行われ、JANA として **Five Lists（問い直すべき五つのこと）の作成指針を示す重要性**が共有されました。既存ガイドラインを持つ学会では、内容を Five Lists 形式に整理することで取り組みが進めやすくなるとの意見がありました。また、Choosing Wisely を病院医療に限らず、予防、産業看護、在宅・高齢者ケア、ACP など**生活を支える看護領域へ広げて検討する必要性**が強調されました。さらに、健康な市民や働く世代への支援、過剰な医療・健康行動を見直す視点も看護職の役割として共有され、JANA が学会間の調整役となることで、より実効性の高い取り組みが期待されることが確認されました。

今後に向けて

本意見交換会では、JANA の重要な役割として、学会間連携の強化、看護の価値を社会へ発信すること、そして実践・研究を支える基盤整備の必要性が改めて確認されました。今後は、Choosing Wisely をはじめとする各取り組みを、調査・研修・情報発信を通じて具体化していく予定です。会員学会の皆様には、今後の調査や企画へのご協力をお願い申し上げます。

なお、意見交換会資料および社員学会アンケート結果は JANA ウェブサイトに掲載しています。また、Choosing Wisely に関する昨年 12 月の JANS45-JANA 合同シンポジウム資料も公開しておりますので、ぜひご覧ください。

<https://www.jana-office.com/information/news/2025/12/12/3577/>